

たてごと

弘前学院大学
宗教部
宗教主任
楊 尚眞

〒036-8577
弘前市稔町
13-1

キリストと人間の実存

宗教主任 楊 尚眞

ような人たちの貧弱した心の中に侵入し悪事を起こさせるのです。

しかし、人は自分の背後において自分に悪影響を及ぼしている悪の力に気が付かないのです。この世は、人間のすべての行動を心理学的に捉え心理学的な分析をして結論を出すだけです。

著名な心理学者シグ蒙德・フロイドは人間の自我を本能の発達過程に對比して心理分析という精神医学の枠を作りました。しかし彼のいう自我

心理、精神という領域は、神の人間創造から離れた人間主義・人本主義で理解した領域です。人間の

すべての実存は、神の人間創造と深く関係しています。ですから神の人間創造の見解を抜きにした人間理解は不完全なのです。

神が人間を創造されたとき、「神のかたち」に

似せて創造されました。それは、「神の品性」が宿っているという事です。それは、神が霊的な存在であるように、人間は霊的な存在であることで神を求め存在であることや神の善を行うことができ倫理道德的な存在であり、悪事を行えば良心の呵責を感じる存在であることです。

普段、人が大きな罪を犯さなくても、自己矛盾があります。追求すべき理想の自分自身に反して蔑視する醜い自分自身を表出してしまふことがあります。この自己矛盾の姿が原罪をもっている人間の姿です。

使徒パウロは、「それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。『内なる人』としては神の律法を喜んでいますが、わたしの五体にはもう一つの法則があつて心の法則と戦い、わたしを、五体の内

にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。』（ローマ7章21、22節）と言いました。彼は「内なる人」とは神を求め神の教えに従つて生きようとする心と、神の教えに反し罪を犯してしまふ「罪の法則」が自身の中にあると告白したのです。

罪の法則は誰にでも存在します。そしてこの法則に従つて生きるように仕向けるのは悪の力です。心理学では悪の力は実在していないと思つているので一般的には言及しません。イエス・キリストは悪の力を多くの人々から退けさせたことが聖書に書かれています。イエスは罪を犯させる悪の力を退けさせるお方、十字架に架かり、死んで三日目に復活したことによつて悪の力から勝利を収めることができるお方であることを表わしてくださいました。悪の力によつて容易く支配され動かさ

去る、7月19日、京都アニメーション・第一スタジオ放火事件によって、35名の死者が出る事件が起きましたが、これは、日本の歴史上、放火事件による最も多くの死者の数です。ある40代の男が、第一スタジオに侵入して、持ち込んだガソリンに火を着け、爆発・火災を引き起こしたのです。まさにテロのような凶悪事件です。そして捕らえられた容疑者は、「パクリやがって！」言い放つたのです。この犯罪の本当の動機はまだ分かりませんが、何かに対する恨み

があつたことだけは確かです。しかし容疑者がどんな恨みを心に抱いていたとしてもこのとんでもない凶悪事件の正当な理由にはなりません。

現代社会では、民族、宗教、人種の違いによる差別や迫害、深刻な人権侵害が横行しています。また、日本では、以前から家庭での幼児虐待や学校でのいじめや職場での様々なハラスメントが問題となつています。これは多くの人々がストレスや挫折感などによつて心が支配されてしまつた結果であり、悪の力はその

が支配されてしまつた結果であり、悪の力はその

れてしまう原罪をもって
いる人間にはその悪の力
と罪を解決するお方であ
るイエス・キリストが必
要です。そのお方が私た

ちのうちに入り、生きる
とき、それらから身を守
り、神の栄光を表わす方
向へと聖化されて行きま
す。

たのもこの故があつての
ことでしよう。そして先
月、弘前学院大学と青山
学院大学が連携・協力を
関する協定を結ぶことが

切されていなかっと思つ
ていました。大切にされ
ていないと感じると、自
分の大切さが分かりませ
ん。自分を愛することが
難しいのです。自分を愛
するようになを愛しなさ
いとの言葉には、まず自
分を愛することが先行し
ています。自分を愛する
ためには、愛される自分
がいなければならぬとい
る、大切にされていると
いう実感がある方は幸せ
です。大切にしていただ
いているなら、自分が大
切な存在だと受け入れる
ことは比較的容易でしょ
う。しかし、愛されてい
なければ自分を愛するこ
とは容易ではありません。
私が父親に愛されていた、
大切にされていたと気付
いたのは、父親が死んで
20年以上経ってからのこ
とでした。確かに愛して
くれていたのですが、そ
れを知らされていなかっ
たのです。父親は私を大
切にしてくれたのですが、

創立一二三三周年記念礼拝 (二〇一九年六月二十日)

「強くなりたい」

青山学院院長(第15代)

教授 山本与志春先生

深い絆、メソジス
ト監督教会に繋が
るキリスト教学校
として、共にキリ
スト教の信仰に基
づく教育を目指し
てきたからに間違
いありません。

弘前学院大学の
「畏神愛人」神を
恐れ敬い、人を愛すると
の建学の精神は、多くの
キリスト教学校に共通す
る精神です。人を愛する
とは、人を大切にするこ
とですが、人を大切にす
る時に、最初に大切にし
なければならぬ人は自
分自身です。いかがでしょ
うか、自分を大切にしてい
るでしょうか。自分を
人と比較して劣っている
者、価値のない者だと卑
下してしまうことがあり
ませんか。私は親から大

私には伝わっていないなかつたのです。世の中には、しばしば伝わらない愛があります。それは、愛している者にとつて悲しいことです。そして、愛されている者にとつても寂しいことです。
幼い命が突然絶たれてしまふ痛ましい出来事が起こります。聞いただけで胸が潰れる思いです。命の尊さを心に刻みたいと思います。どのような命も大切な愛される命です。命の大切さは能力によりません。命の大切さは、その存在にあります。生きて

弘前学院大学は一三三三
年前の一八八六年(明治
19年)6月25日、弘前教
会二階の和室で函館の遺
愛女学校の分校として開
設された来徳女学校が源
です。その開設には、本
多庸一先生が多くを担わ
れておられます。青山学
院の創立は、一八七四年
(明治7年)11月16日津
田仙の隣家の和室で始め
られた、たった7人の女
子小学校が源流とされて
います。本多庸一先生は

青山学院の第2代院長で
日本人最初の院長です。
ちなみに、弘前教会から
青山学院の院長が3人輩
出されています。本多庸
一先生と第6代阿部義宗
先生、第7代笹森順造先
生(笹森建夫先生(尊父)
の3人です。このように、
弘前学院と青山学院は、
本多庸一先生が建てられ
た弘前教会を通して長い
歴史と深い繋がりがあり
ます。私が大切な創立記
念礼拝にお招きいただい

たのもこの故があつての
ことでしよう。そして先
月、弘前学院大学と青山
学院大学が連携・協力を
関する協定を結ぶことが
できたのも、この
深い絆、メソジス
ト監督教会に繋が
るキリスト教学校
として、共にキリ
スト教の信仰に基
づく教育を目指し
てきたからに間違
いありません。

弘前学院大学の
「畏神愛人」神を
恐れ敬い、人を愛すると
の建学の精神は、多くの
キリスト教学校に共通す
る精神です。人を愛する
とは、人を大切にするこ
とですが、人を大切にす
る時に、最初に大切にし
なければならぬ人は自
分自身です。いかがでしょ
うか、自分を大切にしてい
るでしょうか。自分を
人と比較して劣っている
者、価値のない者だと卑
下してしまうことがあり
ませんか。私は親から大



いたことに価値がありません。命を与えられている者が、その命を大切に使うこと。それが、生きていく者の使命です。自分の命を、自分の力を他の人のために使う時に、自分の存在の価値が分かれます。自分の存在が他の人のために役立つことにこれ以上の喜び、幸せはありません。私たちは、一人の例外なく愛され大切にされている価値のある人です。どんな自分でも、人にどんなに蔑まされようが、「わたしの目にあなたは価値高く、貴くわたしはあなたを愛している、私の愛する子よ」と言ってくくださる神様があられます。そして、どんな時も、どこに行こうとも「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」と言ってくくださいます。ですから、強く雄々しく歩むことができます。皆さんは未来の日本を、世界を作る人です。誰もが大切にされる未来を作つ

てください。皆様が神様の愛と力を受け取って、

強く雄々しく進まれますことをお祈りいたします。

教職員研修会

(二〇一九年六月二十日)

「キリスト教学校で働くということ」

青山学院 第15代院長

山本与志春 先生

「米百俵」「教育は国家百年の計」などの言葉は、しばしば耳にします。それがどのような意図をもって語られているかは別としても、教育が重要であるとの認識の正しさには異論がないと思われまふ。それは、未来を担う子どもや若者がどのように成長することを望むか、どのような未来を作りたかという大人の意思や思想が教育の方向に大きく影響を与えることになるからです。正しい戦争である、聖戦なのだと思われ、教育さ

れたが故の悲劇は、歴史の中にも現代にも見られます。国家の利害や宗教・民族の対立関係を武力によらず、対話と和解、許しと受容の共に生きる世界の実現を追求する人を育てることが、キリスト教学校の使命だと思いまふ。

独自性があり、国公立や他の私学とは異なる教育が行われているのです。多くの私学が、独自性と共に先進性が強調されるのも、対応の遅い国公立の動きに対して、時代のニーズにこたえていかねばならないとの創立者の気概の表れだと理解できません。私立学校としてのキリスト教学校は、キリスト教信仰に基づく教育を目指すという確固たる理念をもち、同時に時代の必要を見極め、いと小さき者を大切にしてきた歴史があります。女子教育から始められた弘前学院もその歴史の中を歩んでこられました。

弘前学院大学文学部は言葉によるコミュニケーション力を養い相互理解を深めること。社会福祉学部は、他者の痛みを自分の痛みと感じ、人々の平和と繁栄に寄与すること。看護学部は、謙虚に人と向き合い人を慈しむ高い感性と豊かな人間性の涵養。いずれも、キリスト教の信仰に根差した教育です。

学生にとって良い大学とは、自分を成長させてくれること。自分を大切にしてくれること。素晴らしい友人・教職員との出会いがあること。この三つではないでしょうか。弘前学院大学は学生の成長のために、「オーダーメイドの教育」を実践されています。「全ては学生のために」という言葉は、学生を大切にしていることの確かな証明です。そして、そのような願いをもった教職員が身近にいることは、素晴らしい出会いを作り出していることと思えます。私立学校にとつて、毎年送り出す卒業生がこの学校で学んで本当に良かったと満足してもらえることが、学校の将来を決めます。満足度の高い卒業生の言葉以上に受験生を引き付ける言葉はありません。

青山学院では10点満点



の母校愛を目指していま
す。これも、卒業生の重
要さを意識しているから
です。在校生のニーズを
把握するために、授業評
価や意識調査を行ってい
ます。学校が意図してい
ることと学生の受け止め
方にギャップがないのか
確認し、問題を発見し解
決する手段を講じること
は重要です。

卒業生、地域の方が参加
できるように企画してい
ます。クリスマスツリー
点火祭や同窓祭、大学祭
には多くの方が参加して
くださいますから、その
機会に同窓会を開いてい
ただくようにお勧めしてい
ます。HPやSNSを使った
情報発信、青学TVなども
楽しい情報を流すことで、
視聴回数が増えています。

卒業生に対して、現在
の大学の状況を発信する
ことも母校愛を醸成する
うえで必要です。特に、
クリスマスや母の日など
キリスト教の行事にちな
んだイベントを、学生と
学生は、教職員の言動
を思いのほかよく見てい
ます。優しい言葉かけや
丁寧な対応は、厳しい現
実に立ち向かう学生を支
え励まします。学生アン
ケートに記される感謝の
言葉は、そのような個人
的な体験が多いようです。
キリスト教学校は、一人
ひとりを大切にしている
教育です。「オーダーメイド
の教育」は、一人ひとり
を大切にしているキリスト教
教育そのものです。この
言葉が、学生にとって、
確かなこととして実感し
てもらえるために、教職
員が「すべては学生のた

めに」を合言葉に、これ
からも平和な未来を作る
人を育てていただきたい
と願います。

創立記念礼拝感想文

創立記念礼拝に参加して

文学部

英語・英米文学科

一年三橋優星

創立一三三周年記念礼
拝で青山学院院長の山本
与志春先生が「強くなり
たい」という題での奨励
をしてくださいました。弘
「畏神愛人」という、弘
前学院大学の建学の精神
にもなっている言葉から、
人を愛することにしてい
て考えてみたいと思います。
人を愛するということは、
人を大切にすることです。
とです。私たちは、他人
のことに気を使って大切
にしようとしてしまいが
ちなのですが、本当に最
初に大切にしなければい

けないのは自分自身なの
です。

しかし、私たちは他人
と比較したが、それに
よって自分に対して劣等
感を抱いてしまいがちに
なってしまう。自分
自身が他人から卑下され
ているかのように思っ
てしまうと、自分自身の大
切さがわからなくなっ
てしまいます。だから、自
分を愛することは難しい
のです。「自分を愛する
ように人を愛しなさい」
という言葉は、まず自分
を愛するという言葉が先
行しているのです。すな
わち、自分を愛するには、
愛する自分がいなければ
いけないのです。自分が
愛されるといのはとて
も幸せに感じます。愛さ
れるならば、自分を愛せ
る存在であると受け入れ
るのは簡単でしょう。

しかし、愛されている
と感じることができなけ
れば、自分を愛するとい
う対象の存在として見る
ことはとても難しいこと

なのです。そして、命の
大切さはその人の能力な
どでは決まりません。命
の大切さは、その存在、
生きることに価値があり
ます。自分の存在が他の
人の役に立つのであるな
らば、それ以上に喜ばし
いことはないのです。そ
して、どんなに他の人か
ら蔑まれても、神様は
「私の愛する子よ」と言っ
てください、私たちと神
様は共にいてくださいま
す。だから、私たちは強
く歩むことできる、と山
本先生は言われました。

これを聞いて私は、自
分を愛するにはまず自分
をよく理解することが大
切であると思います。自
分は、どんな人間でど
んなところが素晴らしいと
ころなのかを理解するこ
とが大切だと思えます。
しかし、一番理解する必
要があるのは自分の嫌な
ところ、コンプレックス
であると思います。自分
のコンプレックスを理解
するということは、自分

の苦手なところに向き合うということですが。そうすると、自分のコンプレックスを少しでも改善出来ることに繋がっていくと思います。そして、コンプレックスを少しで改善できると、自分に自信が持てるようになっていくと思います。

自分に自信が付くと自分を愛することができるようになっていくと思います。自信を持ちつつ愛するのでは、その人に与えられる愛は全く違ってくると思います。そして、その自信の一つになるのがキリスト教及び神様なのだと思います。神様は私たちと共に歩んでくださるといことが、キリスト教を信じることで、その言葉を自信に変えることができると思います。また、自分に自信を持つと思うときに一番いけないのは、自分自身を否定してしまうことであ

ると思います。自分自身を否定するのではなく、少しくらい不安なところがあっても思い切った肯定的に自分を考えてあげること、自分を肯定してくれている自分自身を信頼できるようにあります。もし、他人から自分を否定されると信頼の心が薄れてしまうのと同じように、自分自身を否定してしまっていたら自分を信頼すらできません。

もう一つ自信をつける方法を挙げるとしたら、成功することです。大きなことに成功したら私は、確かに自信はつきませんが、小さなことでもいいとは思いますが、小さなことでいいと思えます。なにか、小さな目標を立ててそれをこなして、達成するだけでも成功したということとなるのです。そしてそれだけでも自信はついていくと思います。この礼拝を通して、私も大学生活で自分を愛せるような存在になれるように頑張っていきたいと思えました。

礼拝奨励

「メソジスト」

学校法人弘前学院

理事長 阿保邦弘 先生

二〇一九年七月十八日

弘前教会は昭和16年まで、キリスト教プロテスタントのメソジスト派に所属し、弘前学院もメソジスト派に所属していた。

メソジスト派の正式の名称はメソジスト・エピスコパル・チャーチで

(メソジスト監督教会)である。この派は、18世紀イギリス産業革命の最中、当時の社会情勢の歪みを生じた社会の暗黒面に伝道すべく生まれたものである。この初代の指導者であるウエスレイ兄弟(ジョン・チャールズ)、ホイットフィールドの指導の下に、オックスフォード大学内で厳しい規律ある生活を守っていた。彼らには、「聖書の教えに

従って、聖なる生活を営む方法(メソッド)を追求する者たち」という意味でメソジストというニックネームがつけられた。

メソジズムはやがてアメリカに渡って大きな波となり、19世紀半ばにはアメリカ最大のプロテスタント教派となるに至った。南北戦争の結果、メソジスト教会も南北に分裂し、アメリカ・メソジスト監督教会とアメリカ南部メソジスト監督教会とが対立し、これとカナダメソジスト教会があり、いわゆるメソジスト3派を形成した。

明治6年、最初のアメリカ・メソジスト教会の宣教師が横浜に上陸した。

これが東京英和学校(青山学院)を創立し、その初代院長になったマクレイである。翌7年、招かれて弘前に赴任し、本多庸一と協力して弘前教会を設立したジョン・イングもこの派に属し、その因縁から本多もこの系統のメソジスト教会に所属することになった。カナダ・メソジスト教会も明治6年に、南メソジスト教会はやや遅れて明治19年に日本伝道を開始した。

これらメソジスト3派は、何れも他の教派より遅れて伝道を開始したためか、教会組織の地域的拡大という点では急速な発展は見られなかったが、宣教と教育を一致させたキリスト教主義教育の面で、めざましい成果をあげたことは注目すべき点である。すなわち、アメリカ・メソジスト派の青山学院、横浜聖教女学校、長崎の鎮西学院と活水女学校、函館の遺愛女学校、名古屋の清流女学校、福

岡英和女学校、弘前女学校その他、南メソジスト派の関西学院、広島英和女学校その他、カナダ・メソジスト派の東洋英和学校、静岡英和、山梨英和女学校、金沢英学校その他が相次いで創設されたが、これらは何れも発展して今日に及んでいる。

実は、このメソジスト3派の分立には当然それなりの歴史的経過があったが、日本の宣教事情に即してみると3派分裂は歴史的必然性もなく、本質的意味もないことであった。もしも、これらの合同を図ることができるならば日本の実情に即したより効果的な宣教活動が可能になるという展望が早くからあり、本多庸一が中心的役割をはたしてきた。彼は、明治39年7月アメリカ、カナダの母協会に合同の承認をとりつけるために横浜を出帆し、初期の使命を果たし10月無事に帰着した。

明治40年5月22日、3

派合同総会が青山学院講堂で開かれた。合同となった日本メソジスト教会は、昭和16年日本キリスト教団が成立して吸収され、34年間の歴史に幕を下ろした。しかし、日本キリスト教団に所属する旧メソジスト派の人々は、各種の交流を持つている。弘前学院と青山学院の教育基本協定の締結もその好例である。

感想文

「キリスト教音楽演奏会」を聴いて

看護学部 看護学科
一年 福井美奏

わたしが初めてキリスト教に触れたのは、高校に入学したことがきっかけでした。その頃は、聴いたことのある曲が実は讚美歌であることを知って驚きました。そしてク

リスマス礼拝では、めつたに経験できないハレルヤを歌いキリスト教の音楽を楽しんでいました。ですが、今回の演奏会のように、礼拝堂でプロの方が歌う本格的なキリスト教の音楽を聴くのは初めてでした。キリスト教を象徴するようなステンドグラスと歌の響きがとてもマッチしていて、こよかつたです。特に、ステンドグラスを背に歌っている場面をあまり見たことがなかったので、自然と静かになって、一瞬でその空間が神聖な場所になったように感じました。そのため印象深く、良い思い出になったように思います。

わたしは、高校の時に吹奏楽部に入っていました。そのため、ほかの人よりは、聴いたり、演奏したりしていました。もちろんクリスマス礼拝などで讚美歌の演奏もしました。ですが、今回の演奏会ではいつもとは違っ

た演奏会でとても楽しんで聴くことができました。また、わたしは、一人の方の歌声が、その場の空間全体に響き渡り、全員の注目をひきながら、凛として歌っていた吉村美穂さんの姿がとても素敵で美しいと思いました。

さらに良かったのは、なじみのある讚美歌の曲を歌ってくださったということです。自分が知っていた分、よりいつもと違う曲の良さを感じることができました。また、普段は英語でしか聞かない曲を一番目は英語、二番目は日本語の歌詞にして歌ってくださいている曲が多くのジャンルの曲を聴ありました。日本語の言葉でその歌を聞くとより歌詞の意味を感じながら聞くことができただのでうれしかったです。

そしてピアノを弾いていた野田常喜さんのピアノソロの部分に感動しました。普段聞くオルガンによる普通の讚美歌は何



度も聞きます。しかし、ピアノでアレンジをしたものを聞くと、少し違った角度から音楽を味わうことができそうです。それだけでなく、宗教音楽というなじみないものがアレンジしたことで親しみやすく感じる音楽に変化したように感じ、とても楽しかったです。

今回の演奏会では、普段のオルガンやハンドベルの演奏とはまた少し違った素晴らしい歌声を聴くことができました。とてもいい思い出になりました。

た。違った楽器という点では、弦楽器による演奏もとても心に残っています。いつも自分で楽器を持って演奏できることはとても大変なことだと思えます。しかし、とても堂々と演奏なさっていて素晴らしいです。また弦楽器の人間の声のようなどとも深みのある優しい音色が美しかったです。今まで、オルガンやハンドベルの演奏を聴いたり、それに合わせて歌ったりしていた私からするととても新鮮でした。普段は吹奏楽という形態で大勢の人の演奏を聴くことが多いですが、それだけでなく一人の力で人々を魅了するような音楽も良いと思いきれいだということを知ることができました。

そして静かな空間で響く音が澄み切っていて本当に曲は演奏する人や、楽器、空間などによって新しい魅力があるということ実感する良い演奏会

でした。自分ではなかなか讚美歌などに触れる機会はありませんが演奏会に参加することもないなと思えました。音楽は人によっては、心の安らぎをもたらず不思議な力が秘められています。特に神への信仰が込められた愛と慈しみにあふれた讚美歌はとても美しい曲だと感じました。ですから今度また聞く機会があったら参加してみたいと思えました。この演奏会を通して音楽や讚美歌についての新たな発見ができました。これからも、さまざまな音楽に触れながら、楽しく明るく生活していきたいと思えました。



礼拝感想文

高木秀和牧師説教

「ライフワード

(いのちの言葉)」を聞いて

聞いて

社会福祉学部

社会福祉学科

一年 関村萌香

「ライフワード(いのちの言葉)」という題で説教を聞いた。言葉には、人をマイナスにもプラスにもさせるということを学んだ。人には、最高の瞬間ばかり起きるわけではない。時には、陰口を言われたり、友達や家族と喧嘩をしたり、困難が立ちほだかる時がある。そんなとき、ポジティブな言葉を選択するか、ネガティブな言葉を選択するかで人生が大きく左右してしまうことになる。実際に、私は、高校時代

にバスケットボール部に所属し、キャプテンを務めていた。これまで、集団の先頭に立ち、リーダーとしてまとめるという経験をすることがなかったため、不安とプレッシャーで毎日弱音を吐いていた。「私にはできない」「歴代のキャプテンみたいにふよふよしない」「期待に応えられる自信がない」など、練習が終わっては否定的な言葉を発していた。そうすると、何もかもうまくいかず、練習だけではなく、普段の学校生活にまで負の感情で溢れていた。

しかし、今の私は何があっても「笑顔」を忘れず、どんなことに対しても前向きに考えられるようになった。そんな自分に変わるきっかけを与えてくれたのは、ある一人の先生だった。「自分らしく、あなたはあなたのチームを作ればいいんだよ」この言葉が、私を否定的な感情の沼から引き

あげてくれた。その日から、「笑顔、自分らしく、自分にはできる。」と声に出してから練習に参加するようになった。これまでうまくいかなかったことが嘘かのようにチームの雰囲気も、仲間同士の間関係もうまくいき、自身自身のモチベーションもあがった。自分はポジティブな言葉を選択することが出来るが、人から与えられた言葉によっても人は肯定的にも、ポジティブにもなれるのだと感じた。

聖書の言葉の、「人はその口の結ぶ実によつて腹を満たし、そのくちびるによる収穫に満たされる。死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。」(箴言18章20-21)には、私たちが口から発する言葉としての種を撒き、その実を刈り取ることを意味している。人生では様々な心の傷を受けたり、嫌なことを言われたり、あ

るいは自分で言ってしまったことでもあるかもしれないが、そのような言葉ばかりを胸に抱えるのではなく、神様から語られる祝福の言葉を選択し、また自分自身でも宣言していこうと思った。これからの将来、様々なことが起きるとき、いい言葉も悪い言葉も選択できる、いい言葉を選択し、最高の人生を歩んでいきたいと思った。

それと同時に、自分自身の選択だけではなく、自分が変わるきっかけを与えてくれた先生のように誰かがポジティブに生きるきっかけを与えられる存在でありたいと感じた。たった一言かもしれないが、言葉にはとても大きな影響力があると今回の説教で改めて感じる事が出来た。

現代社会は、インターネットが普及しSNSを利用する人が急激に増加している。ニュースで、裏アカウントを持っている人

の調査を行ったことについて放送されていた。裏アカウントを使用している人は数多くいて、自分の趣味などの専用アカウントに使用している方も多くいたが、特定の人の詐誇中傷や仕事の不満などを書き込むためのアカウントとして利用している人もかなりいることが分かった。自分自身のストレス発散方法かもしれないが、一方では、他人に不快な思いをさせていたり、傷つけているかもしれない。

これらがきっかけで、いじめや引きこもりが増加していることも考えなくてはならない。SNS等を他人と共有する際は言葉の持つ力を利用者一人ひとりが自覚し、自分が発した言葉に責任を持つことが重要になってくる。

自分が選択した言葉が、自身の人生だけではなく、相手の人生にも良くも悪くも影響を及ぼすことを考える必要がある。自分

の語る言葉で自分自身や相手の将来を台無しにするのではなく、誰もが幸せな人生を送ることが出来るよう、言葉を選択し、そしてプラスの影響力を与えていく社会を築いていきたい。



礼拝感想文

吉岡利忠学長奨励

「あなたならどうしますか？」

を聞いて

文学部

日本語・日本文学科

一年 渡辺 百香

私は、七月四日の礼拝の吉岡学長のお話を聞いて感じたことが二つある。

一つ目は、二十五歳が人間の記憶力のような能力がピークであるため、今のうちに勉強だけでなく、色々な知識を身につけることの大切さである。私は、幼い頃から、自分の苦手な教科の勉強や宿題などを後回しにして、提出する前日になって慌ててやる、計画性の全くないタイプだった。

しかし、大学に入学し、自分の時間は有限なのだと改めて考える機会が多くなり、先生から出された課題をあまり溜め込んだりしなくなった。そうすると、自然と心にゆとりが生まれ、自分の好きな読書などに時間を使うことが出来る。時間が生まれると、今まであまりしなかった家事を自らやるようになり、料理や洗濯のような能力を身につけることが出来た。また、後期になってからは、アルバイトや検定試験の勉強もやってみようという目標も自然と生まれた。

今まで、課題を後回しにしていた時は、そんな考えなど生まれたこともなかったもので、私は嬉しくなった。

学長の奨励でも、人間の能力のピークは、二十五歳頃だと言われ、改めて、時間をいかに有効に使うことが大切かを知った。二十五歳になる前に、私は、インターンシップや教育実習、様々なボランティアなどに参加し自分の能力を高め、就職の時に胸を張って自分の能力を言えるようになった。

二つ目は、色々な物事の見方を私たちは持つていて、周囲の人とそれを共有することの大切さである。私は、吉岡学長が私たちに与えられた課題を皆で考えてみた。ある友人は、「命に順位を自分がつけるのはとてもできない。だから、可哀想ではあるが、誰も助けない」と言った。その友人の考えを聞いた時、私にはな

い考えだったので、衝撃を受けた。彼女の気持ちもわかるが、それで、助けることに何かしらの意味があるのではないだろうか。他の友人は、「最初に赤ちゃんを抱えたお母さんに乗せる。そして医師とおばあさんに乗せ、牧師さんと三十代の男性に乗せる。後に、国会議員の男性と、専業農家の男性に乗せる。残った、女性記者とフリーターの男性を見捨てるしかないだろう」と言った。

この考えは、最初に立場的に弱者である赤ちゃんと女性、その次に高齢者、精神疾患患者のように乗せるのだ。この考えは、私のものと似ていると感じたが、しかし、まったく同じではないので、彼女たちの考えがあり、興味深いと感じた。私は、最初に、医師の男性と三十代の男性を送る。なぜなら、心の病を患っているため、空の上でパニックを起こすと危険である。だから、医師である男性の力が必要だと考えた。そのあとは、赤ちゃんと母親、おばあさん、専業農家、国会議員、牧師さんの順番に乗せ、見捨てるのはフリーターの男性と新聞記者だということ、みんなの意見が違うことに私たちは気づかされた。あまり、友達同士でも、こんなに活発に議論することなどなく、新鮮であったが、人のものの考え方にも様々だと気づかされ、その人なりのいい点があることも実感できた。

すべてが良いと感じたものは無かったが、三人で知恵を合わせたらより良い考えが生まれそうだと感じた。やわらかい頭があっても、人を納得させられる説明が出来なかったり、社会に出るまでの課題があるように感じた。近年、小学校、中学校、高校では、グループエンカウンター



の授業や、アクティブラーニングの授業が重要視されている。この授業方法は、私が教師になる頃には主流とされているのだろうか。しかし、このような活動では、自分の意見を述べることもさることながら、人の意見を聞き、それに対して考えを述べる事の重要性が力ギであるだろう。だからこそ私は、この奨励を聞いて感じた事を決して忘れずに、大学生活や、社会人生活を送っていきたいと思う。全て正しい人などいない。皆が力を合わせ、知恵を出し、一つのを作り上げていくことのできる社会を私は望んでいる。

感想文

「ハンドベルクワイアに参加して」

文学部
英語・英米文学科
一年 三上 愛加

私がハンドベルクワイアに所属しようと思った理由は、もともと音楽に興味があったのと、中学時代、吹奏楽部に所属していたので、大学でも音楽に関わりたと思っていました。ハンドベルクワイアがあることを知り、すぐに入りたいと思いました。それに10%の学費免除があったからです。アルバイトをして学費の足しにしようかなとも考えましたが、高校時代にアルバイトの経験がなくいきなりするのはハードルが高いと思いハンドベルクワイアに所属しました。

ハンドベルクワイアに入って最初の印象はとても居心地のいい雰囲気だなと思いました。ハンドベル初心者の中でも、大坊さんや先輩方はとても優しく指導してくれるので、今では簡単な曲ならすぐに演奏できるようになりました。

ハンドベルの特徴といえばベルの一つ一つが音しか鳴らせないのです、一人では曲を演奏することができないことです。なので演奏する時は、9か10人という大人数で演奏します。ですから曲によつては一人かけるだけで演奏できなくなることもあります。それに加えて一人で演奏するのは違い、皆で息を合わせなければならぬのでとても難しいです。演奏しながら自分の心の中でカウントしたり、指揮を見ながら、また周りを見て音を出すタイミングを合わせたりするのでとても難しいです。しかし、その難

しさが私にやりがいを感じさせてくれます。皆で合わせるところで息ぴったりに演奏できるとなんとも言えない達成感を味わえるからです。これは一人で演奏できるピアノとは違う楽しさを味わえます。ぜひみなさんもこの楽しさを味わってほしいと思います。

お知らせ

(後期宗教部行事)

十一月

七日(木)10時30分

秋の特別礼拝

(場所 礼拝堂)

十二月

十二日(木)16時

クリスマス礼拝

(場所 礼拝堂)

十二日(木)18時30分

クリスマス

音楽の夕べ

(場所 礼拝堂)

三月
十三日(金)10時
卒業記念礼拝
(場所 礼拝堂)

編集後記

ギリシャでこのような実話があります。強い日差しが照りつける蒸し暑い日に、ある石工がひざまずいて碑石を磨いていました。すると、ある政治家が通りがかりに、石工に「石のように固い心を持った人たちの心をやわらかくする技術が自分にあつたらいいのに」と言いました。すると、石工は「先生も私のようにひざまずいて仕事をすれば、そうなると思います」と答えたのです。

ずに、警戒心や恨みをもちながら生きていっているのではないでしょうか。皆がそのような固い心をもてば、それは流行病となり、いびつな社会を創ります。すべての人が、謙虚な姿勢で、ひざまずいて、家庭生活に、学校教育に、勉学に、労働に励むとしたら、社会は平和で平穩な社会、住みやすい社会になると信じます。「たてごと」は、キリスト教の精神を伝え、ひざまずく人生を生きるための文集となることを祈ります。
(編集長 楊 尚眞)

「たてごと」の編集の度に思いますが、それぞれの礼拝に対する学生の感想文の率直さに胸打たれることがよくあります。何よりも、学生の言葉が、自らの人生の指針として、礼拝の言葉を受けていることを強く感じます。まさに、これからの時代を歩みだそうとする、その自分の生き方を、この礼拝の言葉を通して、どのような方向へ導いていくべきか、それを真剣に学ぼうとしている姿勢です。是非、この想いを大切に、道を歩んでいってほしいと思います。
(柘植秀通)

ことのできる関わりを行いたい。
(木田優子)

今年も悲惨な事故や災害がありました。それにおおきく運動など、どうしても怒りを他人にぶつけるのでしょうか。子供への虐待もそうです。悲しいことです。しかし、この弘前学院に集う皆さんは、少しは心穏やかに過ごしていると思っております。礼拝を通して、自分を見つめなおし、自分を律する力や人に優しい心を培ってほしいと願います。
(大坊幹子)

